

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,  
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第140号 会報 1993年7月30日

## 目次

	頁		頁
1. 第94回総会ならびに講演会のお知らせ	1	5. IAMAP報告	6
講演申込用紙	2	6. 人事公募	7
予行原稿フォーマット	3	7. 研究助成金案内	8
宿泊所案内	4	8. 1994 WPGM の案内	9
2. “公開フォーラム”のお知らせ	5	9. おしらせ	9
3. 第172回運営委員会報告	5	10. 日本学術会議だより	11
4. 新入会員紹介	6		

### 1. 第94回総会並びに講演会開催のお知らせ

- 第94回総会ならびに講演会は神戸大学理学部のお世話により下記の通り開催されます。
- 期間：1993年10月12（火）～14日（木）
  - 会場：神戸大学文理農学部キャンパス  
神戸市灘区六甲台町1-1 Tel.078-881-1212  
(交通は案内図参照のこと)
  - 講演申込および予稿原稿送り先：  
☆地球内部および月・固体惑星関係  
657神戸市灘区六甲台町1-1  
神戸大学理学部地球惑星科学教室 兵頭政幸宛  
☆太陽・惑星間空間・地球・惑星磁気圏および地球・惑星大気関係  
442豊川市穂ノ原 3-13  
名古屋大学太陽地球環境研究所 小島正宜宛
  - 講演申込は8月31日（火）締め切りです。締め切り日以降に到着した申込、電話やFAXによる申込や遅延依頼は受け付けません。
  - 総会議題の申込も8月31日（火）までに会長宛書面をお願いします。
  - 次頁の講演申込用紙をコピーしたものに必要事項を記入して、予稿原稿とともにお送り下さい。なお、講演申込用紙の氏名、所属はプログラム編集・印刷の都合上、必ず日本語でお願い致します。（講演題目は英語でも結構です。）外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。
  - 非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者としての講演申込は原則として一人一件です。ただし発表分野が異なり、それぞれを口頭、ポスターに分けて行なう場合に限り一人二件までの申込みを受け付けます。
  - 予稿原稿は、規定の枠（A4:3頁参照）にあうようにできるだけワープロを使用して下さい。

今年から予稿集をA4版にするため、予稿原稿のフォーマット  
が大きく変わりました。ご注意ください。

講演申し込み用紙 (コピーしてお使いください)

1. 題目: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

(予稿原稿と同じ言語で記入してください)

2. 氏名 (所属): \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ (日本語で記入してください)

3. 発表分野 (○をして下さい。複数可)

- A 地球内部: 1.主磁場 2.電気伝導度 3.地殻活動電磁気学 4.磁気異常  
5.岩石磁気・古地磁気 6.その他 ( )
- B 固体惑星: 1.太陽系 2.月・隕石 3.比較惑星 4.その他 ( )
- C 太陽・惑星間空間: 1.太陽・太陽大気 2.太陽磁気圏構造 3.惑星間空間擾乱 4.宇宙線  
5.太陽風・磁気圏相互作用 6.その他 ( )
- D 地球・惑星電磁圏: 1.磁気圏構造 2.電離圏構造 3.磁気圏電離圏結合 4.オーロラダイナミクス  
5.磁気圏プラズマ波動 6.ULF波動 7.惑星電磁圏 8.その他 ( )
- E 地球・惑星大気圏: 1.大気圏力学 2.大気圏化学 3.大気圏放射 4.惑星大気  
5.その他 ( )

4. 発表形式: 1.口頭 2.ポスター 3.どちらでも可  
(必ずしもご希望に添えないことがあります)

5. 映像装置: 1.ビデオ装置 (VHSのみ)

6. 発表順位: 以下の講演の (前/後) を希望します.

著者: \_\_\_\_\_

題目: \_\_\_\_\_

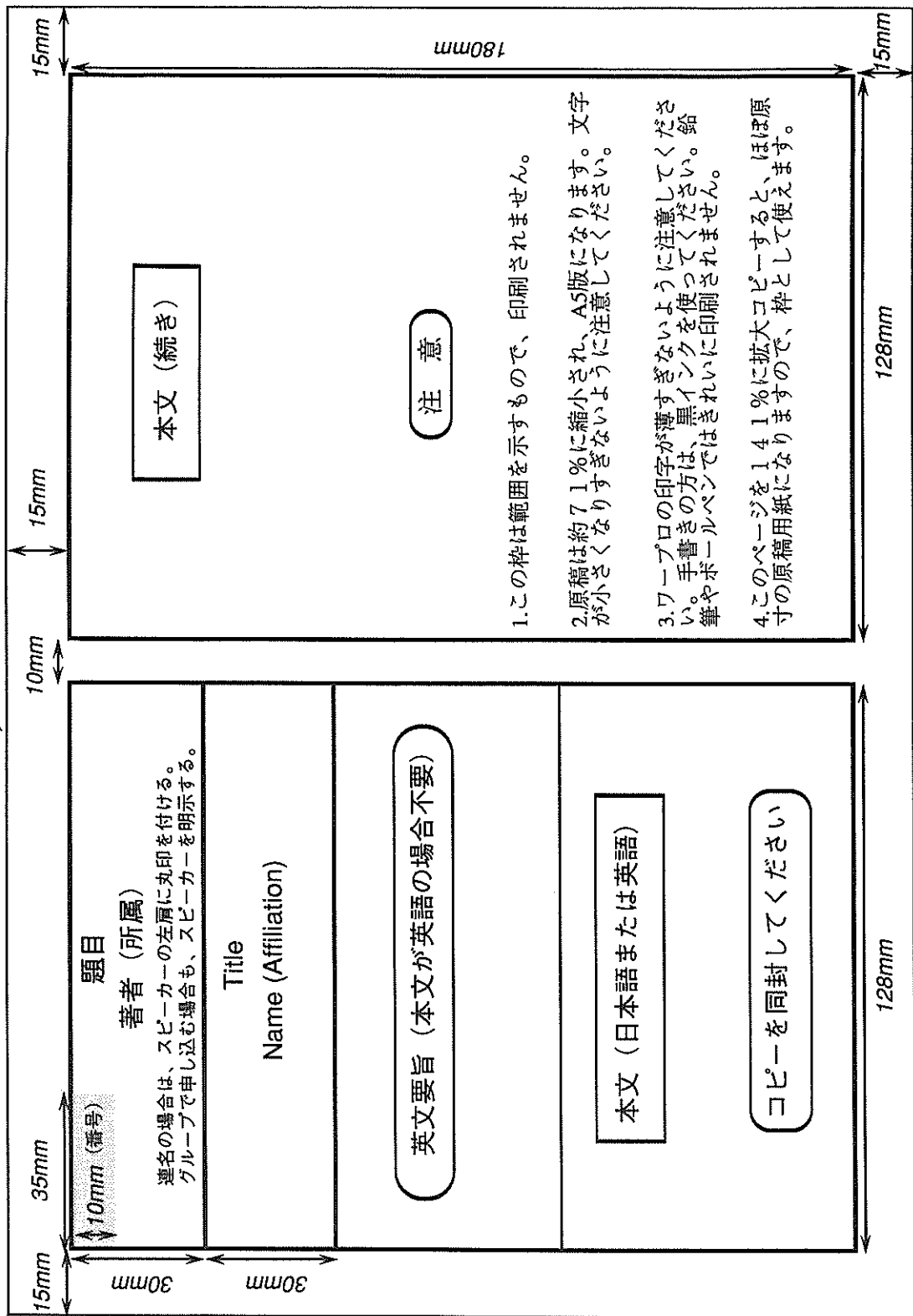
7. 予稿原稿は次ページのフォーマットに従って、A4用紙にできるだけワープロで清書してください。

8. 予稿原稿のコピーを必ず1枚同封してください。

9. その他ご希望、ご意見などがありましたら以下にお願いいたします。

# 予稿原稿フォーマット

## A4用紙の外枠



注意

1. この枠は範囲を示すもので、印刷されません。
2. 原稿は約71%に縮小され、A5版になります。文字が小さくなりすぎないように注意してください。
3. ワープロの印字が薄すぎないように注意してください。文字が小さい方は、黒インクを使ってください。鉛筆やボールペンではきれいに印刷されません。
4. このページを141%に拡大コピーすると、ほぼ原寸の原稿用紙になりますので、枠として使えます。

英文要旨 (本文が英語の場合不要)

本文 (日本語または英語)

コピーを同封してください

- プログラム編集が迅速に行なえるように、予稿原稿のコピーを必ず同封してお送り下さい。
- 口頭発表の時間は15分(講演12分、質疑3分)を予定していますが、申し込み数によっては短くなる場合があります。
- 限られた会期を有効に利用すべく、ポスターセッションのために最大約160件の発表スペースを準備しておりますので奮ってお申し込み下さい。ポスター発表・口頭発表の区分はご希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上ご希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、ご協力下さるようお願いいたします。
- 会場の関係でポスターセッションは  
9時30分-11時30分 ポスターA  
11時30分-12時30分 入替/昼食  
12時30分-14時30分 ポスターB

- の2部制とする予定です。またポスターを掲示できるのは第2日目の上記時間帯のみとなります。
- ポスターの掲示板は、縦180cm、横90cmのベニヤ板1枚です。画鋏・セロテープなどは会場に用意いたします。
- 緊急の話題のために、約5件のポスタースペースを確保いたします。発表希望者は10月5日までに関係のプログラム委員に申し込んで下さい。
- 講演・ポスター発表の際にビデオ(VHS)を使われる方は、その旨、プログラム申込用紙にご記入下さい。
- 学会期間中に研究会、連絡会等の集会を催されたい方は、学会実行委員乙藤まで(078-881-1212 ex.4433)、8月30日までにご連絡ください。

## 宿泊所案内

NO.	宿泊所名	客室数	料金(税等別)	TEL(078)
1.	新神戸オリエンタル ホテル	600	(S) ¥13000 (T) ¥25300	291-1121
2.	ポートピア ホテル	761	(S) ¥10000 (T) ¥24200	302-1111
3.	三宮ターミナル ホテル	190	(S) ¥9400 (T) ¥19030	291-0001
4.	神戸オリエンタルホテル	190	(S) ¥10000 (T) ¥25300	331-8111
5.	ホテルゴーフルリッツ	121	(S) ¥9000 (T) ¥20900	303-5555
6.	グリーンヒル ホテル(第一)	102	(S) ¥7000 (T) ¥13500	222-1221
7.	神戸東急イン	236	(S) ¥8800 (T) ¥17000	291-0109
8.	神戸ワシントンホテル	218	(S) ¥8800 (T) ¥18000	331-6111
9.	グリーンヒル ホテル(第二)	158	(S) ¥8300 (T) ¥14600	222-0909
10.	三宮セントラルホテル	25	(S) ¥7000 (T) ¥11000	241-5031
11.	クオリティイン神戸	110	(S) ¥7700 (T) ¥14500	241-2233
12.	チサンホテル神戸	290	(S) ¥7200 (T) ¥13050	341-8111
13.	ホテルかたおか	60	(S) ¥8000 (T) ¥15000	332-2221
14.	ホテルパールシティ	299	(S) ¥9500 (T) ¥18000	303-0100
15.	第一グランドホテル	108	(S) ¥6500 (T) ¥15500	391-1111
16.	ホテルサンルート神戸	117	(S) ¥7300 (T) ¥15000	578-0500
17.	北上ホテル	98	(S) ¥6900 (T) ¥12500	391-8781
18.	第2北上ホテル	56	(S) ¥6900 (T) ¥12000	392-0401
19.	ホテルモンテ神戸	164	(S) ¥8800 (T) ¥18000	392-7111
20.	ホテルシエレナ	100	(T) ¥25000	371-3333
21.	神戸雅叙園ホテル	66	(T) ¥8800	341-0301
22.	ビジネスホテル ともえ	14	(S) ¥6000	221-1227
23.	神戸プラザホテル	144	(S) ¥6800 (T) ¥13500	332-1141
24.	サンサイドホテル	104	(S) ¥6000 (T) ¥12000	232-3331
25.	プチホテルアルソン	22	(T) ¥11000	231-1538
26.	カサベライン神戸	152	(S) ¥7500 (T) ¥15000	578-0001
27.	ホテル水上	67	(S) ¥7000 (T) ¥13500	575-5871
28.	兵庫県教育会館 北野荘	6	(S) ¥5500	291-0891
29.	神戸タワーサイドホテル	160	(S) ¥5300 (T) ¥11330	351-2151

30. YMCA	(S) ¥6200	241-7205
31. (市) ひょうご共済会館	(S) ¥4800	222-2600
32. (公) 六甲荘	(S) ¥6000 (T) ¥11200	241-2451
33. (警) バレス神戸	(S) ¥4500	371-7800
34. 神戸港海員厚生会館	(S) ¥3000	341-6629
35. 神戸大倉山海員会館	(S) ¥4000	341-0112
36. 神戸海員会館	(S) ¥4100	351-0641

1992年11月末の宿泊料金です。ご確認ください。共済組合の宿泊施設の料金は非組合の価格です。

## 2. 学会新企画“公開フォーラム”のお知らせ

当学会では秋期学会より、学会の正規の講演プログラムとは別に、講演時間外（昼休み、講演終了後）を利用して、公開フォーラムを設定することになりました。これはテーマをもつ研究グループやプロジェクトチームがそのグループの輪を広げるとともに一般の会員を対象に開かれる集会を、運営委員会の世話で学会として積極的にお手伝いし、学会の活動の一環とするものです。この公開フォーラムはしたがって、共同利用研究所の各個プロジェクト、科学研究費補助金、また大型プロジェクト等の立案、下相談等が対象となりますが、その他の問題に対し、公開相談会、報告会、宣伝会、討論会、説明会、あるいは公聴会と言ったいろんな内容で開催されるものと理解されています。したがって、従来、時折研究グループが個別に学会の折りに開催していたものをより広げた性格ともなります。是非ご活用ください。

申し込み 希望日時、予定参加人数、集会名、代表者名を

名古屋大学太陽地球環境研究所 小島 正宜 宛 8月31日まで。

会場 大会実行委員会が希望に沿うよう集会場を用意します。

案内・掲示 学会プログラムに掲載するとともに、大会実行委員会側で統一フォーマットで掲示します。そのほか、申し込みグループで独自に宣伝されて結構です。

公開フォーラムの結果は、会報に掲載できます。

## 3. 第172回運営委員会報告

平成5年7月2日に第172回運営委員会が宇宙科学研究所において開催された。主として審議されたものは以下の通りである。

### 1. 諸報告

前回議事録承認の後、各担当委員から前回以降の諸報告が行われた。

### 2. 新入会員承認、退会者確認

申請のあった10名の入会希望者について審査し承認された。また退会者7名が報告された。

### 3. 学会財務・会費検討

学会の財務について会計担当より過去10年の経理の分析が紹介された。紹介にもとづき審議の結果、JGGの将来計画にかかわって購読料の問題が生ずることが皆無とは言えない現状に鑑み、ここ2年間は会費値上げを見合わせる事となった。経理分析によれば、事業の充実により繰越金は急速に減少しているが一挙に財政破綻にいたる状況でもない。ただし基金の扱いを含め経理運用の合理化を検討していく必要があるという結論になった。また、カード、銀行振

込による会費納入について更に検討を進めることとした。

### 4. 会報の発行について

140号会報の編集計画、発行スケジュールが承認された。

### 5. 次期学会開催準備について

次期学会（神戸大学）実行委員会委員より準備経過の報告があった（大会委員長安川克己会員、実行委員長乙藤洋一郎、兵頭政幸会員）。プログラム編集の日程・役割分担が確認された。学会時の新しい企画として、“公開フォーラム”が提案され承認された。この企画は会報で紹介することとした。

### 6. 合同学会連絡会報告

合同学会連絡会委員の報告に続き、WPGMのありかた、日本の貢献について議論された。

### 7. 1994WPGMについて

SGEPSSからのプログラム委員として大志万委員及び寺沢委員を選出した。

#### 8. '94 合同学会実行委員会報告

1994年3月20~23日東北大学にて開催される。'94 合同学会の実行委員会の発足が報告され、学会側からプログラム委員がリエゾンとして加わることとした。

#### 9. '94 合同学会シンポジウム、共通セッションについて

当学会が関与するシンポジウム、共通セッションについて意見が交換され、運営委員を中心に意見を集約し7月9日までに計画を立てる事とした。

#### 10. 学会規約の解釈について

学会会長の運営委員会・評議員会における役割について、学会規約では不明確である点に関し議論された。その結果、会長は会を代表し総括するもので、運営委員ならびに評議員ではないが、議事に関し議長としての判断を問われている最高責任者と確認された。

#### 11. JGG 将来計画について

JGGの将来検討について議論され、検討委員会の中間答申案について充分注意すべき点があることが指摘され、会長より意見書を添えて返答することとした。

#### 12. 科学研究費審査員候補選出について

平成6年度科学研究費審査員候補（固体地球物理2名、超高層4名、環境・動態1名、2段階審査1名）の運営委員による選挙結果が報告され了承された。

#### 13. 日本旧ソ連研究者学術交流事業について

経過報告ののち、本学会の活動にも大きく関わっていることから積極的に推進することとし、今後湯元運営委員が、この問題ですでにルートを作っている物理学会との間の窓口となって参画していくこととした。

#### 14. 学会賞について

故永田会員の貢献を記念する新しい学会賞について、既存の賞との関連も含めて検討を行った。

## 4. 新入会員紹介

### 正会員

1592	杉山卓也	京都大学理学部
1595	千葉光史	岩手県立不来方高等学校
1598	高橋俊光	全日出版社
1599	中根英昭	国立環境研究所
1601	古賀修一郎	防衛庁技術研究本部

### 正会員（学生）

1594	島津浩哲	京都大学大学院理学研究科
1596	星博幸	山形大学理学部
1597	橋本武志	京都大学大学院理学研究科
1600	横山信博	名古屋大学太陽地球環境研究所
1601	森本千代	神戸大学大学院理学研究科

## 5. 国勢気象学大気物理学協会第6回科学会議報告

京都大学超高層電波研究センター  
深尾昌一郎

本学会に関連の深い国際気象学大気物理学協会 (International Association of Meteorology and Atmospheric Physics; IAMAP) の第6回科学会議が去る7月12日から23日にかけて横浜国際平和会議場『パシフィコ横浜』で開催された。今回ははじめて国際水文科学協会 (IAHS) の第4回科学会議と合同で開催され、気象学・大気物理学と陸水・水文科学関連分野の研究者1,200余名が出席した。本会議はIAMAPに関わる国内組織である日本気象学会とIAHSに関わる陸水・水文関係の13学会が日本学術会議と合同で開催したものであり、広く地球環境問題への理解を深めるとともに、21世紀に向けて各研究分野の新展開をはかることが目差された。

今回の合同会議においては、まず地球環境問題に関する研究分野のうちIAMAP及びIAHSの双方に関わるエネルギー・水循環、地表面・大気相互作用、気候変動と水資源、汚染と地球環境、リモートセンシング技術等のテーマについて計10の合同シンポジウムが開催された。つづいて、IAMAPに設置されている、大気科学・地球環境汚染、大気電気、気候、雲物理学、気象力学、高層気象学、オゾン、惑星大気と進化、極気象学、放電等10の国際委員会がそれぞれ数会場を使って独自のシンポジウムを開催した。さらに、赤道大気力学共同観測計画に関するもの等、4ワークショップも開催された。

とくに、高層気象学国際委員会 (ICMUA) は、

筆者もコンピーナの一人として7月13～17日にかけて中層大気科学シンポジウムを開催した。2年前高層大気を総合観測する目的で打ち上げたUARS衛星の最新の結果を含めて新しい成果が数多く発表され、衛星や地上観測の近年の充実ぶりに目を見張るものがあった。また、研究者の多くが地球大気環境における赤道大気的重要性を認識しており、赤道大気研究が大きな流れになりつつあることを実感させられた。特に、これまで少なかった観測の充実がしばしば議論された。例えば、赤道域成層圏東西風には準二年周期振動(2BO)の、中間圏東西風には半年周期振動(SAO)の存在が知られており、

その成因に赤道域に局在する赤道波が関与していることがほぼ確立したものとされてきた。しかしながら最近の大規模コンピュータシミュレーションによりこれらの波だけでは観測される振動を説明するには不十分な事が判明しており、大気重力波のような比較的小規模な波動の役割を観測により検証することが強く望まれている。なお、IAMAPは現在の大気科学に占める科学等の分野の広がりや明確にするため、1995年米国ボルダーで開催される予定のIUGG総会を期にIAMAS(International Association of Meteorology and Atmospheric Science)と改称されることになっている。

## 6. 人事公募

### ●千葉大学理学部地学科教官公募

1. 担当講座：地球物理学講座
2. 職種：助手
3. 分野：海洋底地球物理学  
電磁気、重力、熱流量などの海洋での観測から解析までを専門とし、他分野の研究者とも積極的に連携される方を希望します。
4. 応募資格：博士の学位を持つか、着任時期までに取得見込の方で、35歳位までの方
5. 着任時期：1993年12月頃
6. 応募書類：
  - a. 履歴書
  - b. 業績(公表論文・著書・学会発表等)のリスト(論文はレフェリーを通ったものとそれ以外のものとを区別して下さい)
  - c. これまでの研究経過の概要(A4で2枚程度)
  - d. 主要論文3編程度の別刷(コピーも可)
  - e. 推薦状か、応募者に対する所見を伺える方数名の氏名とその連絡先等
  - f. 千葉大学赴任後の教育研究計画・抱負など(A4で1～2枚程度)
7. 公募締め切り：8月31日(必着)。必ず書留便とし、「応募書類」と朱筆してください。
8. 書類送付先および問合せ先：
 

〒263 千葉市稲毛弥生町1-33  
千葉大学理学部地学科 新藤静夫  
Tel. 043-290-2843 (ダイヤルイン)  
Fax. 043-290-2874 (理・庶務係経由)  
043-290-5859 (地学専用)

### ●東京大学理学部教官公募

1. 公募の対象
  - (1)固体地球物理学を専門とするもの  
教授1名
  - (2)大気海洋物理学(主として海洋物理学)を専門とするもの  
教授1名
2. 着任時期
  - (1)については平成5年度内(決定後なるべく早い時期)を予定
  - (2)については平成6年4月を予定
3. 応募書類等
  - 略歴書(学歴および職歴)
  - 業績目録(レフェリーのある論文と、それ以外の総説等に分けて下さい)
  - 主要論文3編の別刷またはコピー
  - 他薦の場合は推薦状、自薦の場合は応募者に関する所見を伺うことのできる2～3名の方の氏名、住所等
  - 今後の研究計画・抱負など(自薦の場合、A4版2枚程度)
4. 応募・推薦締切  
平成5年8月31日(火)必着
5. 書類送付先並びに問い合わせ先  
〒113 東京都文京区弥生2-11-16  
東京大学大学院理学系研究科  
地球惑星物理学教室  
主任 浜野洋三  
Tel 03-3812-2111 内線 4293  
Fax 03-3818-3247

## 7. 研究助成金案内

(下記助成金に応募される方は総務までご連絡ください。)

### ●日本証券奨学財団 (平成6年度) 〆切1993年8月20日

大学において学術文化の研究調査に従事している55才以下の個人又はグループが対象。新素材及び環境改善に関する萌芽的研究を重視する。総額6000万円。一件につき100万円程度、ただし、特に必要と認められる場合は300万円の範囲で助成を行なう。

連絡先

財団法人日本証券奨学財団  
〒103東京都中央区日本橋茅場町1丁目5-8  
東京証券会館3階  
Tel 03-3664-7113

### ●日産学術研究助成 (平成6年度) 〆切1993年8月31日 (火) 必着

#### 1. 研究課題

同研究に限る。

- a) 人間と機器の係わりに関する研究  
(重点助成課題)
- b) 資源・エネルギーに関する研究
- c) 自然環境および都市環境に関する研究
- d) 新しい機能材料の研究
- e) 生命現象に関する研究

c) 奨励研究

助成期間1年、200万円限度、35件程度、若手の研究者(概ね35才以下)の個人研究

#### 3. 推薦件数

一般助成〔A〕2件以内、一般助成〔B〕2件以内奨励研究助成推薦枠なし(原則として全件推薦)

#### 2. 研究の種別

##### a) 一般研究 (A)

助成期間2～3年 1,500万円限度、10件程度、共同研究に限る(同一研究室だけの共同研究不可)

#### 4. 連絡先

財団法人日産科学振興財団研究助成係  
〒104 東京都中央区銀座6-17-2 NBビル  
Tel 03-3543-5597 Fax 03-3543-5598

##### b) 一般研究 (B)

助成期間1年、300万円限度、15件程度、共

### ●笹川科学研究助成 (平成6年度) 〆切1993年10月31日

#### 1. 研究計画及び助成額

単年度内で成果を取りまとめられるもの、ただし、大学院生等は3ヶ年を限度とし、年度ごとに審査の対象とする。助成額は100万円以下。

者。平成6年4月1日現在、35才以下。ただし、大学院生等は年齢制限なし。

#### 2. 申請者資格

大学院修士課程に在籍するものならびに修了したもの、またはそれと同等以上の能力を有する

#### 3. 連絡先

財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係  
〒105 東京都港区虎ノ門2-9-16  
日本消防会館3階  
Tel 03-3502-1903 Fax 03-3580-8157



## 8. WPGM の案内

### 1994 WESTERN PASIFIC GEOPHYSICS MEETING

開催日：1994年7月25日（月）～29日（金）

開催場所：香港

主催：AGU

共催：日本測地学会、日本地質学会、日本鉱物学会、日本地震学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本惑星科学会、日本火山学会。

講演申込締切：1994年3月15日

Abstractの送り先やformatなどの詳細は、8月に出るEOSが最も早い情報となる。

プログラム委員会：委員長 末広 潔（東京大学海洋研究所）他。

SGEPPS側の担当者：寺沢 敏夫、東京大学理学部地球惑星物理教室、〒113文京区本郷7-3-1、TEL:03-3812-2111(4582)、FAX:03-3818-

0745。大志万 直人、京都大学防災研究所、〒611宇治市五ヶ庄、TEL:0774-32-3111(3040)、FAX:0774-33-0726

主催者のAGUでは、一応、「西太平洋地域の研究者や、西太平洋地域を研究対象にしている研究者を」対象の中心としているようであるが、sessionはAGUが含む研究分野すべてを対象とし、世界中すべての研究者に対して、門戸を開いているので、必ずしも「西太平洋地域」ということは、必要条件ではない。最近盛んになりつつある、我が国と、東アジアの国々との間の共同研究・交流のactivityをさらにあげる良い機会と考えれば良いのではないだろうか。各方面からの多くの研究者の参加を期待します。

## 9. おしらせ

### ●第17回レーザーレーダ国際会議のお知らせ

国際会議名：第17回レーザーレーダ国際会議  
(17th International Laser Radar Conference)

日時：1994年7月25日（月）～7月29日（金）

場所：仙台国際センター（仙台市青葉区青葉山）

主催：レーザーレーダ研究会、  
米国気象学会 I C L A S 分科会

内容：

ライダーの応用（大気、衛星搭載、陸地、海洋、火山、汚染、国際観測、他）

ライダーの基礎（手法、データ解析、大気光学、分光）

レーザーリモートセンシング（ライダー技術レーザー検出器、測距、補償、光学系、イメージング）

問い合わせ先：17th ILRC 実行委員長 小林喬郎

〒910 福井市文京3-9-1

福井大学工学部電気電子工学科

Tel: 0776-23-0500 (ex. 2705)

Fax: 043-253-0272

プログラムについての問い合わせ先：

竹内延夫 千葉大学映像隔測研究センター

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-3-3

Tel: 043-251-1111 (ex.2897)

Fax: 0435-253-0272

### ●第7回多重散乱国際ワークショップのお知らせ

国際会議名：第7回多重散乱国際ワークショップ  
(7th International workshop of Multiple Scattering Lidar Experiment)

日時：1994年7月21日（木）～7月29日（土）

内容：多重散乱の理論モデル（相互比較と応用）

コンピュータシミュレーション

数値モデルと実験の比較

ライダー信号反転求解法

他分野への寄与：光通信、医用、光エレクト

ロニクス

主催：千葉大学映像隔測研究センター  
M U S C L E 研究会

問い合わせ先：竹内延夫

千葉大学映像隔測研究センター

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-3-3

Tel: 043-251-1111 (ex.2897)

Fax: 0435-253-0272

## ●講習会「カオス」のお知らせ

日本物理学界では下記の通り講習会「カオス—力学系に現れる秩序、無秩序、そして複雑さへの挑戦」を開催されます。当学会も協賛学会となっておりますので、当学会の会員にも会員聴講料が適用されます。

記

日時：1993年8月10日（火）から12日（木）

会場：野口英世記念会館ホール（東京都新宿区大京町2-6 Tel.03-3357-0742）

### プログラム

第1日：8月10日（火）

力学的世界観と予測可能性（島田一平）カオスと秩序（長島弘幸）天体運動のカオス（吉田春夫）  
コンピュータが描くカオス（川上博）数学からみたカオス（久保泉）統計力学とカオス（北原和男）

第2日：8月11日（水）

量子力学にカオスはあるか（高橋公也、安達聡）固体の中のカオス（山崎比登志）流体の乱れとカオス（佐野雅己）生体のなかのカオス（林初男）銀河の構造とカオス（稲垣省五）

第3日：8月12日（木）

カオスと情報処理機能（奈良重俊）カオス：複雑な系への挑戦（金子邦彦）管弦楽器の非線型振動（井戸川徹）カオス：社会科学での数理モデル（山口昌哉）カオスとリアリティ（相沢洋二）

聴講料：一般 15,000円 会員 10,000円 学生 4,000円。テキストのみは一部1,500円送料300円（消費税込み）。

申込み：聴講料を添えて8月2日（月）迄に（社）日本物理学会講習会係（〒105 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館211号室、電話 03-3434-2671）へ申し込むこと。378名の定員に達し次第締め切ります。

## ●学会宛刊行物・資料等のお知らせ

以下の刊行物が学会宛に届いております。ご利用を希望の方は事務局までご連絡ください。

1. 日本学術会議月報 4月号、5月号、6月号
2. 日本のIGBP研究の現状と将来 報告書 日本学術会議
3. 東京大学海洋研究所30年史 東京大学海洋研究所
4. 日本学術会議事務局より、平成5年全国学術研究団体総覧が出版されました。定価8000円

入会申し込み、国際学術交流事業への応募は運営委員会宛、田中館賞推薦は会長宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 大家 寛 総務 森岡 昭

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学理学部宇宙地球物理学教室 022-222-1800 ex.3347 Fax 262-6332

庶務 渋谷秀敏（会報担当）・浜野洋三

〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学総合科学部地学教室 0722-52-1161 ex 3735 Fax 55-2981

運営委員会 〒113 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21(財)日本学会事務センター 気付

03-5814-5810 会員業務（入退会、住所変更等、会費、会誌）

03-5814-5801 学会業務（庶務、窓口、渉外）

03-5814-5820 ファクシミリ

## 「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を採択

平成5年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月21日から23日まで第116回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び同総会で採択された「学術分野における国際貢献についての基本的提言」等についてお知らせいたします。

### 日本学術会議第116回総会報告

日本学術会議第116回総会（第15期・第5回）が、4月21日～23日の3日間にわたって開催された。

総会の初日の午前には、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

午後からも提案案件に対する質疑応答が行われた後、引き続き各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

総会2日目の午前には、前日提案された2案件及び緊急に提案された1案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「国際対応委員会の改組について(申合せ)」が採択された。これは、学術の国際化の急速な進展に伴い、国際学術団体及び国際学術協力事業への対応の重要性がますます増大してきており、日本学術会議としてもその職務を遂行する上で、学術の国際化に関する状況の迅速かつ確かな把握が不可欠であるという観点から、より広範囲にわたる国際学術情報の収集と、それに基づく適切な対応ができるよう、国際対応組織の充実強化を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」が採択された。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中の重点目標として掲げられており、また、一昨年の第113回総会において内閣官房長官から、「学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう」求められ、以来、日本学術会議における重要案件として鋭意審議してきたものである。

提言は、1.学術分野における国際貢献の意義、2.学術分野における国際貢献の在り方、3.学術分野における国際貢献を進めるための提案という構成内容になっており、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、具体的な諸課題について検討していくこととしている。

最後に、上記の提言に基づき、日本学術会議は、国際貢献のための新しいシステムを構築するための具体的方策を直ちに検討し、その速やかな推進を図るという内容の「学術分野における国際貢献についての基本的提言に関する附帯決議」が採択された。

また、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」に関する会長談話を22日付けで発表した。

午後からは、現在、常置委員会、特別委員会で審議されている懸案事項について、自由討議が行われた。

総会3日目は、午前は各特別委員会、午後は各常置委員会・国際対応委員会がそれぞれ開催された。

なお、近藤会長が、4月22日に河野内閣官房長官と、また、同27日に宮澤内閣総理大臣とそれぞれ会見し、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を手渡すとともに、同提言について報告した。

### 学術分野における国際貢献についての基本的提言（抜粋）

（前文略）

#### 1. 学術分野における国際貢献の意義

（本文略）

#### 2. 学術分野における国際貢献の在り方

（本文略。項目のみ）

- (1) 対等・互恵の原則に基づいた国際学術協力の強化
- (2) 国際学術協力の積極的発議等
- (3) 人材育成への協力による国際貢献の推進
- (4) 我が国の学術情報の提供・紹介の促進
- (5) 学術に関する国際団体への対応強化

#### 3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案

前節で述べた我が国の学術分野における国際貢献の在り方を踏まえ、これを推進していくために、以下の事項を提案する。

##### (1) 我が国からの情報提供機能等の充実・強化

###### ① 学会の支援・育成

我が国の学会は、高等教育研究機関や産業界の研究成果の発表の場として重要な役割を果たしてきた。また、研究者相互の活発な国際交流等を通じて、情報の提供に努めているところである。しかしながら、ほとんどの学会は、資金の不足から、必要な活動も十分にできない状況にある。

学術分野における国際貢献という観点において、非政府機関（NGO）としての学会の果たす役割は極めて大きく、それらが有する情報提供機能を最大限に発揮できるように、学会の支援・育成を図る必要がある。

###### ② アジア地域における学術研究に関する連携の強化

我が国と地理的・歴史的・文化的な関係の深いアジア地域の学術の発展に資するため、アジア地域の科学者や学術研究機関の間の学術研究ネットワークを拡充・強化することが必要である。また、将来的には、アジアの学術振興のための国際的な組織の在り方について、関係各国の科学者と協議していく必

## 平成5年(1993年)度共同主催国際会議

要がある。

### (2) 国際学術交流のための支援の充実

#### ① 学術研究機関の整備等

新しい知識の創造と発展は、優れた研究者が集い、切磋琢磨するところから生まれるものであり、研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって、全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ、充実した研究生活を送れるように、学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。

#### ② 来日研究者・留学生への支援の充実

学術分野における国際貢献の第一歩として、各国の人材育成への協力、とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって、内外における日本語教育の充実や、来日研究者・留学生の住居、日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実は早急に図るべきである。

#### ③ 海外派遣研究者への支援の拡充

国際学術交流は、相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって、その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などもできる人材の当該国への配置など、海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。

### (3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築

国際的な学術協力については、我が国においても、既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら、投入されている資金等そのための支援は、質・量ともに、未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも、現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は、必ずしも十分ではなく、我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また、今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力、参加、推進については、これまで以上に、科学者の総意を反映しつつ、総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに、我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには、科学者の力のみならず、政府・産業界の協力、更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し、学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように、国民の理解の下に、諸課題の整理、必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム(例えば「学術協力機構」)を構築するなど、今後真剣に検討を進める必要がある。

### 終わりに

日本学術会議は、人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から、本提言を取りまとめたものである。

なお、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、内外の科学者を始め、広く関係各方面の意見を聴きながら、具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね6件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

#### ◆第7回太平洋学術中間会議(6月27日～7月3日)

太平洋地域の住民の繁栄と福祉に直接関わる学術上の問題に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として宜野湾市(沖縄コンベンションセンター、沖縄都ホテル、メルパルク沖縄)において開催される。

参加予定人数500人(国外300人、国内200人)参加予定国数29か国。

#### ◆第6回国際気象学大気物理学協会科学会議及び第4回国際水文科学協会科学会議合同国際会議(7月11日～23日)

気象学、大気物理学及び陸水・水文科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数1,500人(国外700人、国内800人)、参加予定国数68か国。

#### ◆第15回国際植物科学会議(8月23日～9月3日)

植物科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数4,000人(国外1,500人、国内2,500人)、参加予定国数81か国。

#### ◆第24回国際電波科学連合総会(8月23日～9月3日)

電波科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数1,200人(国外800人、国内400人)、参加予定国数49か国。

#### ◆アジア社会科学研究協議会連盟第10回総会

(9月5日～11日)

アジア・太平洋地域における社会科学の教育、研究、訓練及び普及を促進するため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として川崎市(かながわサイエンスパーク)において開催される。

参加予定人数120人(国外60人、国内60人)、参加予定国数17か国。

#### ◆第21回国際純粋・応用物理学連合総会(9月20日～25日)

物理学を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として奈良市(奈良県新公会堂)において開催される。

参加予定人数300人(国外150人、国内150人)、参加予定国数41か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291(代)